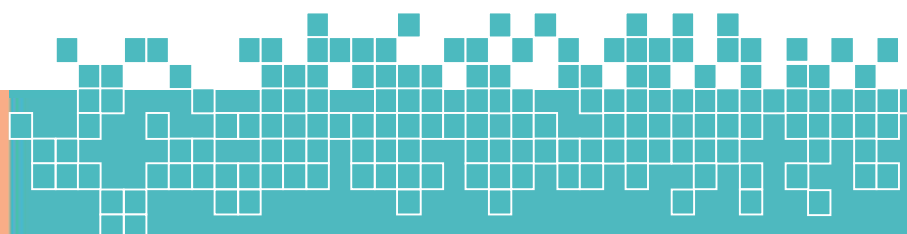




令和5年度事業報告書

公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会



公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会 令和5年度 事業報告書

1. 公益社団法人としての事業について

公益社団法人日本重症心身障害福祉協会は、重症心身障害児者の尊厳を尊重することを基本理念に据え、ご本人及びそのご家族の福祉の増進並びに地域の福祉環境の向上に寄与するとともに、重症心身障害療育の理念及び成果の普及を目的に各事業を展開した。

令和5年度は、職員研修会において利用者の意思の尊重（意思決定支援）・施設内虐待・人権意識等について積極的に見つめ直す機会を作り良質な福祉サービスの提供に努めた。

また、重症心身障害児者施設におけるICT活用を促進するために、現状を把握するための調査を実施、会員施設における医療的ケア児等への支援の取組みについて現状把握と結果報告、人材確保に資するための情報を収集・報告、障害福祉サービス等報酬改定検討チームに提出する要望事項を取りまとめて提出すること等により重症心身障害児者の福祉の向上に寄与することができた。

2. 諸会議の開催について

(1) 総会（定時総会）

定時総会は、令和5年5月18日（木）愛媛県松山市を配信会場としてオンラインにより開催された。

主な決議は、理事及び監事の改選期であったことから新たな理事及び監事の選任決議が行われた。

また、役員への報酬に関する規定を定款に盛り込むことが決議された。

(2) 理事会

理事会は、第1回を令和5年4月、第2回を5月、第3回を9月、第4回を令和6年3月の計4回をオンラインにより開催した。本年度は、代表理事の改選期であったことから第2回理事会において選挙が行われ、児玉理事が代表理事に選任・決議され、理事長に就任された。

(3) 各種委員会の開催

①医療問題検討委員会

当委員会は、委員長、副委員長を中心に令和6年度診療報酬改定の議論を注視し、必要に応じて会員施設に向けて情報発信を行った。

②福祉問題検討委員会

当委員会は、委員長、入所支援部会長及び在宅支援部会長を中心に令和6年度障害福祉サービス等報酬改定に向けたアンケート、施設における人材確保に関するアンケート等の実施を通して報酬改定要望書を取りまとめるとともに、厚生労働省が行う施設実態調査の記入方法等についての説明会の実施、令和6年度障害福祉サービス等報酬改定検討チームでの議論の動向に注視し、必要に応じて会員施設に向けて情報発信を行った。

また、具体的となった令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の生活介護事業所の時間制報酬に関して、懸念事項を要望書として厚生労働省に提出した。

③実態調査委員会

当委員会は、施設実態調査の「個人チェックリスト」から「超・準超重症児者」に係る内容を抽出の上、該当項目を追加した報告書を作成するためのシステムプログラム完成に向けて、報告書の表記についての議論を重ね原案を作成、プログラムを完成した。

④学術委員会

当委員会は、令和5年度第34回重症心身障害療育学会学術集会の開催に関して実行委員会委員長との協働により企画・運営するとともに、応募論文の査読、読売療育賞の選定、重症心身障害の療育（学会誌）の編集などを行った。

また、重症心身障害療育学会学術集会を開催するための手続きを定めた開催規程を策定した。

⑤人材育成・研修委員会

当委員会の職員研修部会は、全国重症心身障害児者施設職員研修会として職種ごとに6コース「看護師コース」「栄養士・調理師コース」「医療技術管理コース」「保育士・児童指導員等（療育職員）コース」「施設管理研究会コース」「看護管理研究会コース」の内容の企画を行うとともに、各種研修会における主催者挨拶、講師等の役割を担った。

また、専門看護師研修部会は、協会認定重症心身障害看護師の認定審査を行うとともに、フォローアップ研修会の企画・運営を行った。

⑥広報委員会

当委員会は、リニューアルした広報誌「重症児とともに」の編集企画及び評価を行い、掲載写真の提供依頼先について決定した。また、ホームページを積極的

に運用する方針を固めた。

⑦特別委員会

当委員会は、委員長を中心に療養介護事業における重症心身障害者の日中活動を含む療育活動の質をより一層向上させるため『療養介護のガイドライン』作成を念頭に置いて、最新の設備を備えた重症心身障害児者施設の視察を行った。

3. 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会等の開催について

(1) 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会

当協議会は、厚生労働省の後援を得て令和5年5月18日(木)、19日(金)、愛媛県立子ども療育センターが幹事施設として松山市を中継拠点にオンライン開催した。参加は116施設及び行政担当者、総勢451名が参加した。

本協議会は、オンラインにより2日間の開催として、1日目午後に各委員会から令和4年度の活動報告、その後東日本・西日本施設協議会の報告があり1日目を終了した。2日目は午前にかども家庭庁支援局障害児支援課による行政説明と「児者一貫制度の過去・現在・未来」をテーマに特別講演、午後には「重症心身障害医療における現場での集積と進歩」をテーマとしたシンポジウムが行われた。

(2) 東日本・西日本施設協議会

東日本施設協議会は、第50回協議会を11月10日(金)オンライン開催にて茨城県水戸市の愛正会記念茨城福祉医療センターを配信会場として開催、参加63施設238名であった。第50回という記念開催となり、5講演と1特別講演という内容に総会を交え、総会では50回という節目の開催であることから児玉理事長より祝辞が述べられた。

西日本施設協議会は、第44回協議会を令和5年11月16日(木)、17日(金)の2日間、福岡県福岡市の九州大学医学部百年講堂を会場として4年ぶりとなる集合型において開催、参加者208名であった。2日間で開催された同会は、初めに総会が行われ、かども家庭庁の担当官による行政説明、特別講演とシンポジウム、全体会として「日本重症心身障害福祉協会報告」及び「施設内感染症アンケート報告」という内容で開催された。

4. 重症心身障害児者施策の対応について

会員施設の施設長等は、全国施設協議会においてかども家庭庁支援局障害児支援課長から障害児施策についての行政説明をいただき、かども家庭庁の役割についての認識を深めるとともに、職員研修会において厚生労働省の障害福祉課虐待防止専門官により施

設内虐待の防止に向けた講義をいただく等により、重症心身障害児者施設における行政施策の理解を深めた。

また、令和6年度障害福祉サービス等報酬改定に向け人件費及び物価の高騰への対応、短期入所の報酬単位の増の必要性についての要望書を報酬改定検討チームへ提出した。

5. 全国重症心身障害児者施設職員研修会の実施について

(1) 看護師コース

令和5年9月7日(木)～8日(金)

会場：アンピールホテル大阪（大阪市）開催担当：北海道ブロック

受講施設：81施設、受講者数：124名

○テーマを「重症心身障害児(者)看護のレベルアップとキャリアアップ」（コロナ禍～with コロナに向けて）とし、1日目に3講演、2日目に実践報告会、グループ討議、全体討議等を行った。実践報告会、グループ討議では、新型コロナウイルス感染症から学んだ教訓を参加者で共有した。

(2) 栄養士・調理師コース

令和5年10月12日(木)～13日(金)

会場：アンピールホテル大阪（大阪市）開催担当：東海北陸甲信越ブロック

受講施設：85施設、受講者数：126名

○1日目に2講演とフリーディスカッション、2日目に講演とフリーディスカッションを行った。フリーディスカッションでは、参加者同士の意見交換に重きを置くため、ワールドカフェ方式を採用し、闊達な意見交換が行われた。

(3) 看護管理研究会コース

令和5年11月1日(水)～3日(金：祝)

会場：ANAクラウンプラザホテル（札幌市）開催担当：北海道ブロック

受講施設：94施設、受講者数：125名

○2泊3日の日程で札幌市にて開催された。1日目は2講演、2日目は1講演と実践報告、グループ討議、3日目は全体討議を行った。また、3日目には施設見学（医療福祉センター札幌あゆみの園、緑ヶ丘療育園、北海道済生会小樽病院みどりの里）も実施された。

(4) 医療技術管理コース

令和5年11月30日(木)～12月1日(金)

会場：アンピールホテル大阪（大阪市）

受講施設：66施設、受講者数：145名

○1日目の午前中は施設の高齢化問題について講演を行い、その後、職種ごとに6分科会に分かれて、取組事例の紹介、課題等について話し合いがなされた。2日目の全体会では活発な討議が行われた。

(5) 保育士・児童指導員等（療育職員）コース

令和5年12月7日(木)～8日(金)

会場：アンピールホテル大阪（大阪市）

受講施設：79施設、受講者数：118名

○1日目に講演、施設発表、グループディスカッションを行い、2日目には講演と全体討議を行った。グループディスカッションでは、「施設内虐待」をテーマとし、意見交換や情報交換が行われた。

(6) 施設管理研究会コース

令和6年1月18日(木)～19日(金)

会場：難波御堂筋ホール（大阪市） 開催担当近畿ブロック

受講施設：91施設、受講者数：189名

○4年ぶりに集合型による1泊2日での開催となった。また、会場も例年使用してきたアンピールホテル大阪（旧山西福祉記念会館）から会場を変えて、担当の近畿ブロックが新たに会場を準備しての開催であった。1日目は行政説明と3講演を行い、2日目は分散討議として今の施設に大きな課題となる6テーマについてグループワーク形式で話し合いが行われ活発な意見交換がなされた。

6. 第34回重症心身障害療育学会学術集会について

第34回重症心身障害療育学会学術集会は、厚生労働省、こども家庭庁、宮城県、仙台市、読売光と愛の事業団等の後援を得て、令和5年10月5日（木）、6日（金）の2日間、宮城県仙台市において開催した。2日間で303名（事前申込295名、当日申込8名）の参加があり、幹事施設である仙台エコー医療療育センター利用者の家族も聴講された。演題は66題が採択され、65題の発表が行われた。第19回読売療育賞は、読売療育賞1題、奨励賞3題が受賞された。学術集会前日には仙台エコー医療療育センターの施設見学が実施され、27施設63名が参加した。

7. 在宅重症心身障害児者の支援者養成について

本取組みは、在宅の重症心身障害児者を含めた医療的ケア児等への支援に会員施設が深く関り、支援者の養成のみならず地域の医療的ケア児等への支援及び支援体制の

構築に携わっていることからそれらの取り組みについて把握し、全国にフィードバックすることで地域の支援水準の底上げをすることに照準を移し、会員施設における医療的ケア児等への支援の取り組みについてホームページにおいて公表した。

8. 重症心身障害児者施設永年勤続者の表彰について

本表彰は、定時総会をオンラインにて開催したことから、表彰者629名（99施設）に対して表彰状と副賞の送付をもって表彰式とした。

9. 日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師制度の充実について

認定証授与式は、定時総会がオンライン開催であったため、認定証の送付をもって、授与式に代えた。また、既認定者フォローアップ研修についてもオンラインにて実施した。

○令和5年度認定者および認定更新者の数

- ・第12回認定者数 申請者38名 認定者38名
- ・第8回認定更新者数 申請者59名 更新者57名
- ・第3回フォローアップ研修会

参加者数 155名（オンライン参加142名、現地集合13名）

10. 全国重症心身障害児者施設実態調査の実施について

当調査は、公法人立の当協会会員の重症心身障害児者施設の利用者を対象とし、療育の向上に資するため毎年実施しているが、令和5年4月1日現在での施設等の実態を調査した。

また、超重症児（者）・準超重症児（者）の実態調査については、個人チェックリスト・新版【第Ⅱ版】入力データにて調査できる集計プログラムの作成が完了した。

11. 関係機関及び関係団体との連絡、連携の強化について

全国重症心身障害児（者）を守る会、独立行政法人国立病院機構、全国社会福祉協議会等の関係団体との情報交換により、相互の連携強化を図ることができた。また、重症心身障害児者の福祉制度の所轄庁であるこども家庭庁及び厚生労働省の担当官による行政説明をいただくなどにより連携を深めた。

12. 広報紙の発行について

広報誌「重症児とともに」は、令和5年8月末日と令和6年3月末日にて年2回発行し、当協会会員施設、関係者及び関係機関等へ1,222部配布するとともにホームページに掲載した。